



今後の

社会の変化に

対応した

多様な

体験活動事例集

## 農林漁業の理解を深める体験活動

事業・活動名	地域	活動の対象者・参加者								掲載ページ
		幼児	小学生Ⅱ 低学年	小学生Ⅱ 高学年	中学生	高校生	大学生・専門 学校生等	30歳未満 の若者	青少年の 保護者	
短期山村留学	島根県大田市	●	●	●	●				●	2
宇佐子ども体験教室（農泊体験）	大分県宇佐市		●	●						3
新潟発 わくわく教育ファーム推進事業 「アグリ・スタディ・プログラム」（農業体験学習プログラム）	新潟県新潟市		●	●	●					4
ジュニアフォレスト大戦略	岩手県			●						5
農山村留学	千葉県千葉市			●						6
野沢温泉移動教室	東京都東村山市			●						7
胎内市ふるさと体験学習	新潟県胎内市			●						8
森林環境学習「やまのこ」事業	滋賀県			●						9
自然学校推進事業	兵庫県 兵庫県上郡町			●						10
中山間地域ふるさと体験活動支援事業	鳥取県鳥取市			●						11
マタギの地恵体験学習会	秋田県北秋田市 東京都国立市			●					●	12
草原体験学習	熊本県阿蘇市			●					●	13
セカンドスクール・プレセカンドスクール	東京都武蔵野市			●	●					14
しまの魅力に出会う 日本の宝「しま」交流支援事業（五島市コース）	長崎県 長崎県五島市			●	●					15
漁業体験学習	岩手県洋野町				●					16
農業体験学習	宮城県多賀城市				●					17
「ふれあえVA!福島」民泊体験学習	埼玉県越谷市				●					18
修学旅行での酪農体験	和歌山県				●					19





## 農林漁業の理解を深める体験活動



# 短期山村留学

大田市教育委員会・大田市山村留学センター

【島根県】

## 活動概要

- 対象 保護者同伴の幼児・小学生・中学生(公募、全国各地から参加)
- 参加人数 短期山村留学 約220名(この他、約10名の長期山村留学も実施)
- 活動時期 春季(1泊2日、4泊5日)、夏季(11泊12日、4泊5日、1泊2日)、冬季(4泊5日、1泊2日)【令和元年度】
- 活動場所 大田市山村留学センター「こだま学園」ならびに大田市内の各地域
- 連携協力 公益財団法人育てる会

## 背景・目的

- 少子化と子供たちを取り巻く環境の変化(外遊びの減少、忙しさ)を現代社会の課題として捉え、都市部の子供たちと農山村の子供たち、又は、都市部と農山村との間で相互にメリットが生まれる方策について、様々な人が意見を出し合い、平成8年に山村留学事業を開始した。
- 従来の「山村留学＝過疎地域の小規模校対策」という枠組みを越え、「次世代を担う人づくり事業」として、生き抜く力の育成を目的に実施。

## 主な取組

短期山村留学では、子供の休暇(土・日や夏・冬・春休みなど)を利用して、数日から2週間程度の期間に、農山村集落・高原・海という大田の魅力あふれる自然や地域の文化素材を活用した様々な体験活動と、農家へのホームステイを実施。

(夏季の活動例)

- 【1日目・2日目】友達を作ろう、三瓶を歩こう
- 【3日目～6日目】川で遊ぼう、魚を釣ろう、海で遊ぼう
- 【7日目】食文化体験(こんにゃく作り、豆腐作り)
- 【8日目・9日目】農山漁村生活体験(農家宿泊、畜産体験、漁業体験、稲作体験等)
- 【10日目・11日目】工作(木工細工、竹細工)、石見銀山見学、登山、自然観察等
- 【12日目・13日目】お別れ会、活動のまとめ

## 特徴

**農家へのホームステイで、都会の子供も、農山漁村の子供も、地域住民の方の優しさと厳しさと伝統的な生活や文化に触れる**

大田市の地理的条件を活かして、海と山両方の自然体験活動をふんだんに取り入れ、魅力あふれる自然や文化などの他の地域にない優れた教育的資源を活かし、子供たちのたくましく生き抜く力を養っている。

農家でのホームステイでは、優しさや厳しさに触れながら、野菜の収穫、風呂たきなど、家族の一員になって様々な農山村の生活体験をしている。

## 成果・展望

中山間地で実験的に短期山村留学に着手し、都市と地方の子供たちとその保護者の交流が育まれ、その延長として1年間(通年)の長期山村留学制度の導入に至っている。

自然体験と里山生活という資源が有効に活用されており、子供たちの活動や交流を通して地元にも活力が涵養されてきた。



# 宇佐子ども体験教室(農泊体験)

宇佐市教育委員会・四日市公民館

【大分県】

## 活動概要

- 対象 市内小学校の3・4年生（全ての対象児童に学校経由でチラシを配布）
- 参加人数 28人【令和元年度】
- 活動時期 活動全体では6月から翌年1月の計8回実施、7月に農泊体験（1泊2日）
- 活動場所 四日市公民館が主だが、農泊時は受け入れ家庭にて行う（令和元年度7家庭）
- 連携協力 NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会（農泊体験について）

## 背景目的

- 高齢者・女性以外を対象にした公民館の学級活動がなかったため、平成10年に小学5・6年生を対象とした現子ども体験教室の前身である「わんぱく体験隊」が企画、実施された。以来、対象児童の学年を3・4年生に変更し活動を実施している。
- 農泊については、農作業等で汗を流して働くことの大切さを学んだり、収穫した野菜などを使った料理作りをしたりと、日常の生活や学校生活では体験できない、農村ならではの体験をさせることを目的として実施。（平成21年より実施）

## 主な取組

心豊かな感性を持った子どもを育てるため、主に市内において農泊・木工・歴史学習等の体験活動を実施。農泊体験では、1泊2日で、野菜の収穫や種まき、牛の世話等の農業体験や、川遊び、おやつやおもちゃ作り等を経験する。なお、農泊で主に収穫体験をできるようにするため、例年7月に実施している。

実施に当たってはNPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会と連携。慣れない場での農作業・食事・宿泊等、子どもたちの命に関わる重大なリスクを伴う体験となるため、緊急時の対応等に留意の上実施している。

## 特徴

### 保護者と離れて、市の多様な地理的・社会的環境を知り、自分で考えて行動することを学ぶ

農泊体験は、四日市公民館の所在する旧宇佐市地域でなく旧安心院町・院内町で行うため、市の多様な地理的・社会的環境を子どもたちが知る貴重な機会となっている。

初めて保護者の元を離れて宿泊する子どもや、初めて会う方の家庭に宿泊する子どももあり、様々な農村での活動を通して、豊かな感性を身に付けることができています。さらに、マナーや友達との関わり、工夫することや我慢することなど社会性も学んでいる。



## 成果・展望

教室での新たな人間関係の構築、及び、これまでの日常生活や学校教育では知り得なかった知識に触れて感性を刺激される体験を通じ、閉講時には大いに精神面で成長している。



# 新潟発 わくわく教育ファーム推進事業「アグリ・スタディ・プログラム」 (農業体験学習プログラム) 新潟市・新潟市教育委員会

【新潟県】

## 活動概要

- 対象 市内小学生、中学生（学校にプログラムの冊子を配布、学校から申込み）
- 参加人数 学校ごとの希望人数（最大宿泊数70人まで）
- 活動時期 通年で1泊2日、令和元年度は小中合わせて25校が4月～10月に実施
- 活動場所 公立教育ファーム 新潟市アグリパーク
- 連携協力 新潟市教育委員会学校支援課・新潟市農林水産部食と花の推進課

## 背景・目的

- 農業が盛んな特徴を活かし、「田園型政令市」を目指す中、農業が身近にある環境の中で市内の小中学校が農業体験学習を実施することで、新潟市が誇る農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの愛情や誇りを育むとともに、子供たちの「生きる力」を高めることをねらいとしている。（平成26年度より実施）

## 主な取組

搾乳体験や畑の耕起体験、野菜の収穫・調理体験、生ごみのたい肥化や果樹栽培に関するプログラム等を、各学校のねらいに即した流れになるように組み合わせて実施する。

（令和元年度に実施した小学5年生の取組の例）

ねらい：農業・農産物加工・食に触れる体験を通して、農業についての理解を深め、命の恵みについて学ぶ。

【1日目】「野菜収穫→石窯ピザ作り→生ごみのたい肥化の体験」で、学校における野菜作りと対比しながら、循環型の農業について学ぶ。

「羊とのふれあい→ウィンナー作り体験」で、人が生きていくために動物の命を頂くことを学ぶ。

【2日目】「畜舎の清掃→搾乳→牛へのえさやり→牛乳試飲・アイスクリーム作り体験→酪農家のお話」で、子牛のためのお乳や牛の命を頂いていること、そのために酪農家は努力をしていることを学ぶ。

最後に2日間のまとめと振り返りをする。



## 特徴

### 様々な教科と農業体験を結び付けて、学習指導要領上の位置付けを明確にしたプログラム

このプログラムは、知識と体験を結び付けて確実な学びを実現するために、5つのことを大切に編成されている。

- A 五感を通して学ぶことで、自分の感覚と知識を結び付ける
- B 「育てる」と「消費する」を結び付けて学習する
- C 働くことを通して学ぶことでキャリア意識を持たせる
- D 「アクティブ・ラーニング」で学ぶことで深い学びを実現する
- E 専門家に学ぶことで、農業を支える「人」に気付かせる

## 成果・展望

実施した学校のアンケートから、「食に対する感謝の気持ち」「農業への関心」「農家への尊敬の気持ち」の高まりが成果として挙げられている。

＜具体的な内容の一部＞

- ・日々の生活では当たり前と感じている食について、「本物」と関わることで、命の尊さを感じ、命の恵みを実感できた。
- ・作業は思った以上に大変だが、その分達成感ややりがい大きい。後継者問題など考えていかなければならないが、若い人も頑張っていて、農業も進化していることが分かった。

# ジュニアフォレスターズ大作戦

岩手県教育委員会

【岩手県】

## 活動概要

- 対 象 県内小学校の4～6年生（学校を通じてチラシを配布して募集）
- 参加人数 40人程度
- 活動時期 年間登録制：1泊2日×3回実施（6月、9月、1月）
- 活動場所 岩手県立県北青少年の家
- 連携協力 林野庁東北森林管理局岩手北部森林管理署、県北広域振興局農政部二戸農林振興センター林務部、馬淵川上流域森林・林業活性化センター、二戸市浄法寺支所漆産業課

## 背景・目的

- 森林に関する学習や体験活動等を季節ごとに行うことにより、自然を大切にする心を育み、環境保全の実践意欲を育てることをねらいとしている。（平成12年度より実施）

## 主な取組

令和元年度は「森林と人との関わりについて」をテーマとし、森林に関する学習やフィールドワークの活動を組み合わせて実施。

年間3回の活動において、例えば第1回に栽培した野菜を第2回で収穫し、調理実習の食材として利用したり、座学で学んだ「うるし」を使ってのストラップ創作等の活動を実施。

（令和元年度第2回の活動内容）

【学 習】《うるしは すごいのだ》

【体 験】二戸市浄法寺町滴生舎周辺のフィールドワーク

【栽培採集】収穫「野菜をとろう」

（第1回で苗植え・種まきした野菜を収穫）

【調理実習】～トマトソース・パスタ～「収穫野菜を使ってつくる」

【そ の 他】「うるしストラップ創作」「キャンプファイヤーと花火」



## 特徴

**「森林」をテーマに、「学習」「体験」「栽培採集」「調理実習」等を相互に関連付けた計画的なプログラムを実施**

年間テーマを設け、それに迫るプログラムを企画。環境に加えて、地域や人にも目を向けるきっかけになるように内容を工夫している。年間3回の活動だけでなく、3年間、合計9回体系的に学ぶ子供も多い。

## 成果・展望

森林の大切さに加え、人との関わりについて意識が高まっている。森林が私たちを守り、私たちが森林を守り、育てる。子供たちは、互いに支え合いながら、共生していることを感じている。また、森林関係に従事する方々への感謝の気持ちを新たにしたい子供たちが多く見られた。

# 農山村留学

千葉市教育委員会

【千葉県】

## 活動概要

- 対象 全市立小学校の6年生（全校111校悉皆）
- 参加人数 計8,310人【令和元年度】
- 活動時期 5月～10月、2泊3日か3泊4日
- 活動場所 千葉市少年自然の家、千葉県立鴨川青年の家、南房総市大房岬自然の家、他
- 連携協力 千葉市少年自然の家、南房総市観光協会、鴨川観光プラットフォーム株式会社

## 背景目的

- 多くの人々との交流を通して、人間関係を広げる中で、子供たちの他人を思いやる心や社会性を育成する。
- 農業や林業、漁業などにつながるような活動や、地域の自然や文化に触れる様々な体験活動を通して、児童の自主性や創造性を伸ばす。
- 日常とは異なる生活環境において、自分の住む町や千葉市、自分の家族について見つめ直し、考える機会とする。（平成17年度より市内全校で実施）

## 主な取組

（活動の実践例【鴨川の伝統を生かした活動】）

鴨川にある伝統文化を体験させるために「萬祝染体験」（千葉県指定伝統的工芸品の染物体験）や「せんべい焼き体験」を実施。また、5～7名のグループに分かれ、農家に宿泊して農業体験活動を行った。

実際に畑を耕したり作物を収穫したりするなど、普段は体験できない農業に関わる作業を体験的に学習することができた。また、収穫した野菜や果物を民泊先の家族の方と調理し、一緒に食べることで、食に関する感謝の気持ち及び食材や調理に関する興味を持つことができた。

## 特徴

### 日常とは違う経験の中で、友達と一緒にいろいろなことを学び、成長する

教室を移して宿泊体験を行うことで、自分を見つめ直し、友達との関わり方を考え、行動できるようにするという目的を理解させて実施。

【鴨川の伝統を生かした活動】では、鴨川の伝統文化をしっかりと体験できるように講師の方と活動人数や実施方法などを話し合った。また、「体験学習のてびき」（市教委作成）の活用を広め、充実した活動内容となるように支援している。



## 成果・展望

萬祝染を体験したことで、伝統文化について関心が高まった。千葉県には他にどのような伝統文化があるのか、調べようとしている児童もいた。地域の方たちの生活や農作業について学べ、良い経験となっている。農山村留学以降、家でも料理を自ら進んでするなど成長が見られている。



# 野沢温泉移動教室

東村山市立八坂小学校・東村山市立秋津小学校・東村山市立萩山小学校 【東京都】

## 活動概要

- 対 象 各小学校の6年生（移動教室）
- 参加人数 八坂小学校130人、秋津小学校102人、萩山小学校64人【令和元年度】
- 活動時期 6月から7月、3泊4日
- 活動場所 長野県野沢温泉村、民宿
- 連携協力 野沢温泉観光協会

## 背景・目的

- 宿泊先のオーナーである「野沢温泉のお父さん、お母さん」（宿舎のご夫婦）との生活を軸とした民泊型の移動教室で、農業体験をしたり地元の人々と触れ合ったりする中で自立性を養うとともに、子供たち同士の助け合いや絆を深めることを通して、地元である東村山市の再発見につなげる。（八坂小学校は平成30年度、秋津小学校は平成28年度、萩山小学校は平成23年度より実施）
- 多数のオリンピックを輩出している自治体であり、オリンピック・パラリンピック教育についての関心を高める。

## 主な取組

3泊4日の日程の中で、民泊による生活、共同浴場巡り、植林（ブナの植樹）、農業体験（野菜の収穫、野沢菜摘み）、村の伝統工芸品である「つる細工」作り、オリンピックとの交流などを体験。ブナの植樹は100年後にブナ林が復活していることを願って実施。摘んだ野沢菜は麻釜（おがま 源泉）で茹で、昼食で食べることも経験する。

（日程例）

- 1日目 民宿の方との出会いの会、間伐材を利用した名札制作
- 2日目 農業体験、山登り、植林、道祖神（村の守り神）作り
- 3日目 農業体験、つる細工作り、オリンピックとの交流
- 4日目 朧月夜の館で「ふるさと」斉唱、民宿の方との別れの会



## 特徴

**地域の特性や文化などを比較することで、地域への愛着が高まる**

民宿での交流会では、子供たちが住んでいる東村山の特色について「野沢温泉のお父さん、お母さん」に発表。東村山市と野沢温泉村との地域の特性や文化などを比較する経験をする。



## 成果・展望

植樹することにより山の環境が良くなり、ひいてはそれが川を辿って海へも影響を及ぼすことを知ることで環境問題についての関心が高まり、持続可能な開発目標についても考えることができる。

環境とパートナーシップを通して野沢温泉と地元である東村山市の未来について思考を巡らし、次代を担う人材を育成できる。

# 胎内市ふるさと体験学習

胎内市・胎内市教育委員会

【新潟県】

## 活動概要

- 対象 市内全小学校の5年生（5校、授業の一環）
- 参加人数 年次により変動
- 活動時期 7月下旬から9月上旬までの2泊3日（うち、1泊集団宿泊、1泊農家民泊）
- 活動場所 集団宿泊：新潟県少年自然の家（胎内市内）等、農家民泊：市内各受入民家
- 連携協力 胎内型ツーリズム推進協議会301人会（事務局：胎内市農林水産課）

## 背景目的

- 平成19年6月に市を事務局として「胎内型ツーリズム推進協議会301人会」が発足。様々なグリーン・ツーリズム事業を展開する中で、重点事業の1つとして開始。
- 平成20年に市内全小学校の5年生を対象に行う学校の総合学習の一環として始まった事業であり、“地域子どもたちは地域でしっかり育てる”ことをモットーとしている。

## 主な取組

新潟県少年自然の家での集団宿泊に加えて、1軒あたり4名程度で市内全域の、山間部から平野部まで様々な地域での農村生活体験（農泊）を行う。

農村生活体験では、子どもたちはその時季ならではの農作業の機会、料理の機会、団らんの機会からなる「3つの機会」を体験する。

また、微細米粉発祥の地を掲げる胎内市では、総合学習の一環として米粉に関する食体験を活動内容に組み込んでいる。



## 特徴

### 市内で、集団宿泊体験・農泊体験・多様なプログラムの体験活動を全て実施

市内で全てが完結するこの活動を通し、地域の魅力、人の魅力、ふるさとへの誇りの醸成などを体感することで、“教育・共育・郷育”の3つの“きょういく”を成果指針として実施している。

地域循環型の事業として、地域、学校、行政が一体となって進めており、市内の自然に触れるカヌー体験やブナ林トレッキング、星空観察等をはじめ、特産品、観光施設を活用した体験活動を実施し、子どもたちは地域への理解とふるさとの素晴らしさを体感することができる。

## 成果・展望

実施後のアンケートでは、子どもたちのほとんどが胎内市のよさに気付き、今までよりもっと好きになったと回答。

学校側からは子どもたちの事後の学校生活の様子が明らかに変わった、友達と協力して物事を進められるようになったなど様々な意見が寄せられている。保護者からも、自分のことは自分でできるようになった、責任感が強くなった、食事の好き嫌いがなくなったなど、普段の学校生活では習得し得ない多様な学習効果がもたらされている。

# 森林環境学習「やまのこ」事業

滋賀県

【滋賀県】

## 活動概要

- 対象 県内小学校の4年生（学校ごとに実施希望施設や参加希望日程を提出）
- 参加人数 225校、13,383人【平成30年度】
- 活動時期 各学校と調整、日帰り（終日）又は1泊2日を学校ごとに選択
- 活動場所 葛川少年自然の家(大津市)、自然体験学習センター森の未来館（栗東市）、みなくち子どもの森（甲賀市）、河辺いきものの森（東近江市）、荒神山自然の家（彦根市）、高取山ふれあい公園（多賀町）、高山キャンプ場（長浜市）、森林公園くつきの森（高島市）、滋賀県立近江富士花緑公園（野洲市）から学校が選択
- 連携協力 市町教育委員会、国立・私立小学校、特別支援学校、各種学校等、やまのこ事業受入施設を所管する市町等部局

## 背景・目的

- 次代を担う子どもたちが、森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、学校教育の一環として、森林環境学習施設及びその周辺林で体験型の学習を実施。（平成19年度より全県実施）

## 主な取組

以下のような活動を実施。また、体験活動の効果を高めるため、学校で事前・事後学習を実施。

### 【森に親しむ学習】

森林ウォーキング、樹木観察、自然体験ゲーム、植物の標本作り、植物スケッチ、森林の中でのレクリエーション、木登り体験、等

### 【森づくり体験学習】

間伐体験、間伐材搬出、枝打ち体験、植樹、下草刈り、ドングリなどの苗木作り、里山整備体験、竹林整備体験、等

### 【森の恵み利用学習】

間伐材を利用した工作、森の木の実や葉などを使ったクラフト、きのこ採集、きのこ栽培、昆虫飼育、薪作り、炭焼き体験、薪炭を使った調理、等

### 【森のレクチャー】

山の仕事に携わる人の話、山村文化体験、溪流の水質調べ、等



## 特徴

**「やまのこ」は五感で学ぶ、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）である**

子どもたちが、自ら森林に入って活動することで、本から得た知識や教室での学びが生きて働く知識になる。また、仲間と協力することが欠かせない森林での活動を通じて、対話が生じ、協調性が磨かれる。

## 成果・展望

「やまのこ」事業での学習成果を小学5年生で実施する「うみのこ」事業へとつなげる「やまのこ」を琵琶湖と森林をつなぐ体験学習として実施し、「うみのこ」とともに、探究的・協働的な学習を推進。（「うみのこ」：県内小学5年生全員を対象に、学習船「うみのこ」船上等で宿泊体験型のびわ湖環境学習を実施）

体感することで関心が高まり、森林や自然環境を大切にしたいと思う気持ちが育まれる。実際に森林に入ること、樹木や草花、あるいは森に住む生き物等への興味が高まり、森林の働きや重要性について主体的に学ぶことができる。自ら進んで学ぶことで森林を好意的に捉え、大切に守っていこうという意識が芽生える。



# 自然学校推進事業

兵庫県教育委員会(上郡町教育委員会)

【兵庫県】

## 活動概要

- 対象 県内公立小学校の5年生及び義務教育学校前期課程の5年生
- 参加人数 48,600人【平成30年度】
- 活動時期 4泊5日以上
- 活動場所 兵庫県内施設等（上郡町では西はりま天文台、農場等で実施）
- 連携協力 兵庫県教育委員会及び市町教育委員会、県内野外活動施設、体験活動実施施設等

## 背景目的

- 学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、児童が人や自然、地域社会と触れ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、ともに生きる心を育むなど、「生きる力」を育成することを目的とする。
- 県の補助事業として、各自治体の小学5年生を対象に実施。  
(昭和63年度より実施)

## 主な取組

豊かな自然の中で長期宿泊体験活動を実施し、日常生活ではできない感動等を体験。施設に宿泊し、周辺の自然についての学習や地域との関わりのある活動を行う。

一例として、上郡町の学校では、学校教育活動全体を通して、食育に関する意識を高め、食の大切さを学び実践できる子供の育成を目指し活動を行っている。

(上郡町での活動例)

- ・ハウス栽培・露地栽培の見学と栽培についての説明
- ・野菜の出荷から流通や販売についての説明
- ・野菜の収穫体験（万願寺唐辛子、ズッキーニ、オクラ等）
- ・その他農作業の手伝い
- ・収穫した野菜の一部などを使った調理実習



## 特徴

### 教育課程前後の系統性を踏まえて活動を実施

小学3年生で実施する「環境体験事業」との系統性や関連性を踏まえるとともに、中学校以降における体験活動との系統性やキャリア教育の視点を取り入れ、効果的な活動となるように留意。ねらいを明確にし、自然学校の教育効果を高めるための事前・事後活動の充実に留意して実施している。

## 成果・展望

農場等で学校では得難い体験活動を行うことで、自然の美しさや神秘性、厳しさなど様々な自然と触れ合い、豊かな感性や知的好奇心を育むとともに、辛いことを我慢したり、友達に相談したりする経験を通して、自分自身や友達の長所・能力などを発見し、人間関係を深める機会となっている。

# 中山間地域ふるさと体験活動支援事業

鳥取市教育委員会

【鳥取県】

## 活動概要

- 対象 市内小学生（義務教育学校前期課程を含む）（希望校を募って実施）
- 参加人数 13校、641人【平成30年度】
- 活動時期 年度中・各学校1回・原則1泊以上のまとまった宿泊を含める
- 活動場所 鳥取市佐治町
- 連携協力 五しの里さじ地域協議会

## 背景目的

- 児童生徒が直接ふるさと鳥取の自然・文化や人々と十分に触れ合う体験活動は、鳥取市教育振興基本計画の基本理念「ふるさとを思い 志をもつ子を育て、夢と希望に満ちた次代を“ひらく”！」を推進するために重要な位置付けにある。
- 「鳥取市中山間地域対策強化方針」が策定されたのを契機として、佐治町の民家での農林家暮らし体験を中心に、林業体験や和紙作り体験などの自然・文化体験について、平成23年度から小学生を対象に実施している。

## 主な取組

宿泊場所について、最低1泊の民泊を取り入れた計画とし、農林家暮らし体験、林業体験、郷土料理作り体験、魚のつかみどり体験、和紙作り体験、星空観察、お寺の本堂での座禅体験、方言での佐治谷話等の活動を地元住民の協力の下で行う。

林業や自然の素晴らしさ、大切さ、山あいの暮らしのよさを感じ、普段できない体験ができたことへの満足感を味わうことができ、民泊家庭での生活を通して、人の温かさを感じ、自分の家庭での役割を考えることができる。



## 特徴

### 市内地域を教育資源として活用し、ふるさとを思う心を持つ子供を育てる

過疎地域のまちづくり協議会、地元企業、住民の協力の下、農山村での生活体験を行い、子供たちに豊かな人間性や社会性を育むとともに、ふるさとでの自然や文化の素晴らしさやそこに暮らす人々の温かさを心の原風景として刻み込む。

教育課程上の位置付けを明確にし、学校と五しの里さじ地域協議会との綿密な打合せの上で実施している。



## 成果・展望

児童アンケート（実施前・実施後）において、アンケート項目の肯定的回答が上昇。「命の大切さやありがたみ」、「ふるさと鳥取の自然の素晴らしさ、大切さ、山あいの暮らしのよさ」、「普段できない体験ができたことへの満足感」、「人と触れ合うこと、友達と協力することの良さや協力できたことへの満足感」等を感じている。

# マタギの地恵体験学習会

北秋田市、北秋田市教育委員会、マタギの地恵体験学習実行委員会 【秋田県】

## 活動概要

- 対象 東京都国立市在住の小学4～6年生（メール、電話、FAXのいずれかで募集）
- 参加人数 児童11人、保護者11人（これ以外に北秋田市が募集した児童31人も参加）【令和元年度】
- 活動時期 夏休み期間に3泊4日で実施
- 活動場所 北秋田市内
- 連携協力 北秋田市、北秋田市教育委員会、マタギの地恵体験学習実行委員会が主催、秋田県教育委員会が共催の事業に国立市の児童が参加

## 背景・目的

- 国立市は、旧合川町(現北秋田市)と長年児童交流を行っており、平成30年10月に教育・文化・経済・観光等の分野において広く市民相互の交流を図ることを目的に、「国立市・北秋田市友好交流都市協定」を締結。
- 児童の新たな学びの機会の提供とともに、北秋田市との文化交流の促進を目的として、北秋田市が実施する事業に国立市の児童も参加できるようにした。（令和元年度より参加）

## 主な取組

マタギ弟子入り体験として、ニワトリの毛むしり体験や、きりたんぼ作り体験、イワナをさばく体験、山菜の皮むき体験等を実施。ニワトリの毛むしり体験については、まだ温かいニワトリの毛をむしった後、地元の方が解体する様子を見学。マタギの方からは、マタギは余分な狩りは行わず、必要な命を必要な分だけ「授かる」ということや、授かった命は新人マタギもベテランマタギもみんな平等に分け合うという話を聞く。この他、北秋田市と国立市が連携して実施する「都市と山村の友好の森事業」の一環としての植林体験や、伊勢堂岱遺跡縄文館に関する体験学習等を実施。



## 特徴

### 文化の違いを体感－北秋田市の農村で命を頂く－

国立市では学ぶことができない北秋田市の文化を体験することで、国立市との文化の違いを体感し、国立市の文化についても改めて興味・関心を持たせている。また、森林環境学習を目的とした植林体験を行うことで、更なる学びの機会につなげている。風習や文化の違いを感じ取って、また、「命の学習」を通じて、生きる知恵について学ぶ。

## 成果・展望

インターネットでは分からないことを、体で感じ学ぶことができています。参加児童から、「命を頂いて生活していることが分かった」「昔の人が生活で様々な工夫をしてすごいと思った」などの感想が寄せられている。



# 草原体験学習

阿蘇市立内牧小学校

【熊本県】

## 活動概要

- 対 象 市立内牧小学校の4年生（全員参加）
- 参加人数 59人【令和元年度】
- 活動時期 10月8日・10月9日（1泊2日）【令和元年度】
- 活動場所 夢☆大地グリーンバレー
- 連携協力 阿蘇市公民館内牧分館、公益財団法人阿蘇グリーンストック、阿蘇市社会福祉協議会、阿蘇市地域婦人会

## 背景・目的

- 阿蘇地域では、かつては、草は大切な資源であり、農家の人々が採草地のある草原で、竹の骨組みにススキで屋根を葺いた「草泊まり」を作り、寝泊りしながら草刈りを行っていた。
- こうした先人の取組を体験し、草原を維持していくことの大切さを学ぶ学習の一環として「草泊まり」作りや自然探検等の体験学習に取り組んでいる。（平成25年度より実施）

## 主な取組

草原を維持してきた先人の取組に学び、「草泊まり」を作り、子供たちが宿泊する体験学習を実施する。

また、体験学習のまとめとして、「千年の草原」という劇を創作し、校内の学習発表会や阿蘇草原再生協議会主催「こども地域学習発表会」において、他学年や保護者及び地域の人たちに学習の成果を発表する。

【事前準備】 「草泊まり」材料準備（竹切り、かや切り）

【1 日 目】 「草泊まり」作り、自然探検（草原の野草・昆虫観察）、歴史講話（草原の土塁の話）、非常食作り、星空観察

【2 日 目】 乗馬体験 等



## 特徴

### 様々な協力・連携により、地域の自然や歴史を継承する取組として実施

実施に当たっては、地域の様々な団体等、保護者の連携、協力があり、活動の維持にはこれらの団体等の協力が不可欠となっている。他方で、地域にとっても、子供たちに地域の自然や歴史を継承する取組となって定着し、子供たちとの良いふれあいの機会となっている。



## 成果・展望

阿蘇の自然の下で、規則正しい集団生活を通して、自治共同の精神を養い、心身の健全な発達を図る機会となっている。

草原体験学習を通して、阿蘇の自然の大切さや先人の取組や知恵についての理解が深まり、自分たちの環境を保全していこうとする態度や郷土を愛する心情が育っている。

# セカンドスクール・プレセカンドスクール

武蔵野市教育委員会

【東京都】

## 活動概要

- 対象 市立小学校の4年生・5年生、市立中学校の1年生（授業の一環）
- 参加人数 対象学年の全ての児童生徒
- 活動時期 セカンドスクール：（小5）6泊7日、（中1）4泊5日  
プレセカンドスクール：（小4）2泊3日
- 活動場所 新潟県魚沼市、南魚沼市、十日町市、長野県飯山市、安曇野市、白馬村、富山県南砺市利賀村、群馬県みなかみ町、片品村、山梨県富士河口湖町、山中湖村、東京都奥多摩町、檜原村
- 連携協力 戸狩観光協会、南魚沼市観光協会、魚沼市地域づくり振興公社、上越国際グリーンツーリズム協議会、南砺市商工会利賀村事務所、大北農業協同組合（JA大北）、越後田舎体験推進協議会、みなかみ町体験旅行、ピレージ安曇野、おくたま地域振興財団 等

## 背景・目的

- 自然豊かな農山漁村地域において長期宿泊を伴う体験学習を実施。自然の学び舎を「第2の学校」として、普段の学校生活にはない体験を行う。
- 「課題解決への意欲や態度」「豊かな人間関係」「自主性・協調性」「進んで他者と関わる力」などを培うことをねらいとして、平成7年度に小学校で、平成8年度に中学校で開始した。

## 主な取組

民宿や農家等に宿泊し、農業体験（稲刈り、収穫体験等）、林業体験、実施地の地域（産業・暮らし・自然・歴史等）に関する学習、ハイキング・トレッキング、現地の方との交流、郷土食作り、環境保全活動、などを体験。

（活動内容例）

【事前学習】実施地の自然や産業・暮らしの様子などから関心のあるテーマと課題を設定し、調べ学習に取り組む。

【体験活動】田植え・稲刈り体験、農業の機械化について・商品化・出荷の工程に関する学習、水や森林に関する学習、等

【事後学習】グループごとに学んだことをまとめ、プレゼンテーションソフトを使って下学年・保護者・地域の方などに対して発表、等



## 特徴

### 事前・事後学習を含む、発達段階に応じたプログラムを作成

普段の学校生活を「ファーストスクール」とし、そこでは体験しがたい総合的な体験的な学習を「セカンドスクール」で実施。事前学習・事後学習の内容を含め、各学校が創意工夫をしながら計画を立て、実施している。

また、小学4年生を対象にプレセカンドスクールを実施。セカンドスクールとの関連性を考慮しながら、学習効果及び学習意欲を高める工夫をしている。

## 成果・展望

共同生活により、普段の学校生活では気付かない同級生の良さなどが見え、他人を大切にすることや協力することの大切さを学び人間関係を深めることができる。東京ではできない農業・林業等の様々な体験活動を通して自ら課題解決に取り組む姿勢を育むことができる。

# しまの魅力に出会う 日本の宝「しま」交流支援事業 (五島市コース) 長崎県教育委員会、五島市事業実行委員会【長崎県】

## 活動概要

- 対象 県内の小学4年生～中学3年生（対象の児童生徒全員に募集チラシを配布）
- 参加人数 約40人
- 活動時期 7月23日～7月26日、3泊4日【令和元年度】
- 活動場所 五島市（玉之浦地区・三井楽地区）、頓泊海水浴場、三井楽町公民館、ツナドリーム五島、漁港（三井楽・岐宿・玉之浦）
- 連携協力 五島市教育委員会、株式会社JSH等

## 背景目的

- 県内の子供を対象に「しま」の魅力を伝え、また島を訪れてみたいと思う人を増やすことを目的に事業を開始。（平成16年度より実施）
- 現在は、地元産業体験や国境離島についての理解を深めるプログラムなどを通して、島と本土の子供たちの相互交流を深めたり、ふるさとを愛する心やコミュニケーション能力を育成することに重点を置いて実施している。

## 主な取組

海水浴体験や波止釣り体験などの海浜活動、地元産業見学として養殖マグロの給餌体験、3つの地区に分かれての農山漁村民泊体験、島の名所や島ならではの自然を感じるトレッキング等を実施。

また、国境離島についての理解を深める教育プログラムを実施した。



## 特徴

**島の自然・歴史・暮らしなどについて理解し、ふるさと長崎県の素晴らしさを再認識する**

市の実行委員会に県の担当者が出向き、事業内容について協議するなど、協力しながら事業を進め、観光メインだった活動から交流や体験などの教育的要素を盛り込んだプログラムに変更していった。

五島市コースでは、養殖マグロの給餌体験や民泊体験などを実施。島の漁業のことや、領海のことなどについて学んでいる。



## 成果・展望

3泊4日の活動を通して「しま」についての理解を深め、また訪れてみたいと思う参加者が多く見られている。

参加者の事後アンケートでは、漁業にとってなくてはならない大切な島であることや、人口減少の問題等に対して認識が高まっていることが窺える。



# 漁業体験学習

洋野町立宿戸中学校

【岩手県】

## 活動概要

- 対 象 町立宿戸中学校の1～3年生（同校全生徒参加）
- 活動時期 1年生7月下旬～8月上旬、2年生12月上旬及び3月上旬、3年生4月中旬
- 活動場所 宿戸漁港地先等（荷さばき施設、増殖溝）、修学旅行先（東京都）
- 連携協力 種市南漁業協同組合、岩手県立種市高等学校

## 背景・目的

- 近くに海がありながら、海との関わりが薄れるとともに漁業の担い手不足が深刻化している地域の現状がある。
- 地域の基幹産業である漁業を体験することにより、海に親しみ、地域を愛する心を育てることを目的として実施している。（平成17年度より実施）

## 主な取組

特産であるウニを採取し、塩ウニ加工、更には鮭とば作りを行い、商品として修学旅行で販売する体験を通して多様な学びを得る機会とする。また、学習活動を通して自然の大切さや脅威を学ぶとともに、地域の復興・発展に主体的に関わる態度を育てる。

（活動の内容）

- 1年生 ウニ採取、ウニ剥き身作業、塩ウニ瓶詰、瓶ラベル作成
- 2年生 鮭加工、天日干し、商品加工袋詰め
- 3年生 1年生、2年生が作った塩ウニ及び鮭とばの販売  
（修学旅行中にいわて銀河プラザにおいて販売）



## 特徴

### 採って加工し、販売するまでの一連の営みを学ぶ

一連の営みを学ぶ中で、漁業の大変さや面白さ、そして販売の難しさを実感する。また、加工品の購入者とのやり取りを通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力の育成を図ることができる。

## 成果・展望

一連の営みを体験することにより、生徒は働くことの大変さを知るとともに、仕事を終えた後の達成感や漁業の楽しさを実感している。漁業者の方々とともに活動することで、実感の伴った勤労観を得ることができる。本校は、令和2年3月末で閉校となるが、統合先の学校においても「地域とともにある学校づくり」を推進し、継続して実施していくこととしている。

# 農業体験学習

多賀城市立東豊中学校

【宮城県】

## 活動概要

- 対象 市立東豊中学校の2年生（学校行事）
- 参加人数 97人【令和元年度】
- 活動時期 5月9日～5月11日、2泊3日【令和元年度】
- 活動場所 岩手県遠野市内
- 連携協力 遠野山・里・暮らしネットワーク

## 背景・目的

- 民泊による農家での体験活動を通して、人とのふれあいの中から協調性や社会性を身に付けさせる。
- 農業という第一次産業の仕事に関わることで将来の仕事について考えるきっかけとする。

## 主な取組

宿泊班ごとに、体験先の農家に民泊し、畑作業や酪農等の農業体験をする。  
事前学習で遠野市の民話や産業などについて学習し、遠野市の歴史や風土を学んでから開村式に臨む。  
民泊先の家族との交流を通して社会性を高めたり、働くことの意義について考えたりできる内容となっている。



## 特徴

### 農家での活動を通じて、働くことの意義や将来のことについて考える

学校を離れた校外での活動であり、家族や教員以外の大人との交流からコミュニケーション能力を高めたり、将来について考える場を設定したりできるように工夫している。

## 成果・展望

農業に対する興味・関心に高まりが見られている。  
また、退村式での生徒の発表や事後のまとめなどから、民泊や様々な活動を通して感謝の気持ちを素直に話せるようになるなど、心の面でも成長が見られるようになっている。

# 「ふれあえVA!福島」民泊体験学習

越谷市立平方中学校

【埼玉県】

## 活動概要

- 対象 市立平方中学校の2年生（参加確認書により参加を確認）
- 参加人数 107人【令和元年度】
- 活動時期 9月18日～20日【令和元年度】
- 活動場所 福島県南会津町（館岩地区、伊南地区、南郷地区）、各民家
- 連携協力 株式会社旅クラブジャパン、南会津農村生活体験推進協議会、会津高原自然学校

## 背景目的

- 地域・校外に出て多くのひと・ものから学ぶという学校の教育方針の下、本校独自の取組「かたれVA!」（交流の中の対話、授業の学び合い、対話や発信を促す場面を意図的に設定する取組）、「ふれあえVA!」（総合的な学習の時間の名称で、様々な人たちとの交流を呼ぶ）の一環として実施。（平成29年度より実施）

## 主な取組

生徒4名程度が各地区の民家に宿泊し、その家庭の日々の農作業等と一緒に行動。

初日は、入村式を行い、民家の方との顔合わせ、各民家に分かれての体験を行った。2日目には各民家での活動を実施。3日目は、最後の体験を行い、その後に離村式を経て帰校した。

活動内容は各民家によって様々で、雨が降った日は、屋内でできる農作業を行ったり地域の生活や文化について学んだりした。晴れた日は、草取りや作物の管理、収穫などに民家の方と取り組んだ。2日目の夜には生徒が民家の方々に感謝を伝える会を企画して交流を深めた。



## 特徴

**生徒の住む環境ではできない様々な体験の中で、  
たくさんの人に支えられている実感と感謝の気持ちを高める**

たくさんの体験活動を行うとともに、福島に残る原発事故等の差別や偏見に直面した中から、自分なりの考えや思いを持つことによって、たくさんの人に支えられている実感と感謝の気持ちを高めることができる内容に改善し、実施している。

## 成果・展望

普段できない体験を通して、人々の努力や多くの人に支えられている実感を持つことができた。また、働くことの大変さを実感し、将来について考えるきっかけとなり、今後の進路指導に活かしていくことができる取組となった。  
民家の方々の温かさに触れることで、生徒同士でもお互いに尊重し合える優しい気持ちが高まった。



# 修学旅行での酪農体験

和歌山県立向陽中学校

【和歌山県】

## 活動概要

- 対象 県立向陽中学校の3年生
- 参加人数 80名【令和元年度】
- 活動時期 5月27日～5月30日（修学旅行）【令和元年度】
- 活動場所 公益財団法人キープ自然学校
- 連携協力 公益財団法人キープ自然学校

## 背景目的

- 和歌山県立向陽中学校は中高一貫校で高校の環境科学科に接続しており、総合的な学習の時間を「環境学」として実施している。その特色を修学旅行に活かすために、大自然の中で循環型酪農を体験できる山梨県北杜市清里のキープ自然学校で活動を実施。その活動は開校から14年間継続している。

## 主な取組

- 1日目に事前学習と森の中を散策するナイトウォッチングを実施。
- 2日目は早朝からの酪農体験。牛を放牧し、牛舎の清掃や搾乳、牧草集めなどを体験する。

### （活動の内容）

1日目：夕方、何一つ無駄にすることなく活用する循環型酪農について、スライドによる事前学習を受講する。

2日目：5時起床。6時から牛舎を開放し、牛を牧草地まで放牧。その後40分ほどかけて牛舎を清掃し、糞尿は全て溜め置き、長期間ねかせて堆肥をつくることを学ぶ。（堆肥は牧草地に散布する）

朝食後9時、牧草地に行き牛舎まで集牧。最後に搾乳を体験する。

体験終了後、宿舎に戻り、質疑応答とスタッフから体験談を聞く。



## 特徴

### 事前・事後学習を充実させ、循環型酪農について深く学ぶ

循環型酪農のもつ意味を事前・事後学習で深めることで、自然環境の大切さ、生命の尊重や自然の中での人間らしい生き方など、頭で理解するのではなく体験しているからこそ実感として学ぶことができている。

## 成果・展望

日常では体験できないことばかりであり、初めは牛や糞尿に恐怖や嫌悪感を表す生徒もいるが、作業を進めるうちに、抵抗なく没頭するようになる。酪農家の仕事について体験談を聞くことは生徒に感動を与え、「牛の命を頂く」ことから命の大切さを学ぶとともに、自然の中で人間らしく生きるキャリア学習としても有意義な取組となっている。